令和５年６月吉日

お礼とその後の活動についてのご報告

五代友厚記念事業委員会
委員長　　児玉　隆夫

もう数年も前のことになってしまいましたが、五代友厚銅像建立、五代友厚伝記出版事業にご寄付をいただき、ありがとうございました。銅像建立に始まる一連の事業に一つの区切りがつきましたので、ここにあらためてお礼とその後の活動報告をさせていただきます。

五代友厚像の除幕式を2016年3月19日に行いました。その前年の秋から始まったNHK朝の連続ドラマ「あさが来た」で五代友厚役を演じたディーン・フジオカ氏のご出席と印象深いご挨拶で式典は大いに盛り上がりました。また、寄付金が当初の目標をはるかに越える額に達しましたので、銅像の設置場所一帯を学生が憩えるような広場に整備して大学に寄贈いたしました。

五代友厚について、正しく知ってもらうための伝記の出版は執筆を経済学部卒の八木孝昌氏にお願いしました。氏は信じられないほどのスピードで資料の収集と執筆を進め、３年間の予定を２年に縮めて、640ページに及ぶ大部な『新・五代友厚伝』をPHP研究所から刊行しました。この伝記によってこれまで誤り伝えられていた多くの五代像が正され、史実に基づく五代友厚像が初めて世に明らかにされました。

誤り伝えられているものの中でその最たるものは「北海道開拓使官有物払下げ事件」で、高等学校日本史のどの教科書にも五代は「悪徳な政商」のイメージで書かれています。一例を挙げますと、三省堂『詳解日本史B』では「開拓長官黒田清隆は設置以来1400万円を投じた事業を39万円の無利息30年賦で同じ薩摩出身の五代友厚らに払い下げようとし、藩閥と政商の結託と批判された」というものです。これが誤りであることを最初に指摘したのは当時住友資料館副館長の末岡照啓氏で、『住友史料館報』に掲載されていたのを八木氏が探し当てて詳細を明らかにしました。

このような教科書で教えられている状況を変えるため、荒川学長（当時）の発案で「五代友厚官有物払下げ説見直しを求める会」（代表、児玉）が結成され、高校日本史を発行している教科書会社と『日本史年表』を刊行している岩波書店に対して記述の見直しを求める活動を開始しました。

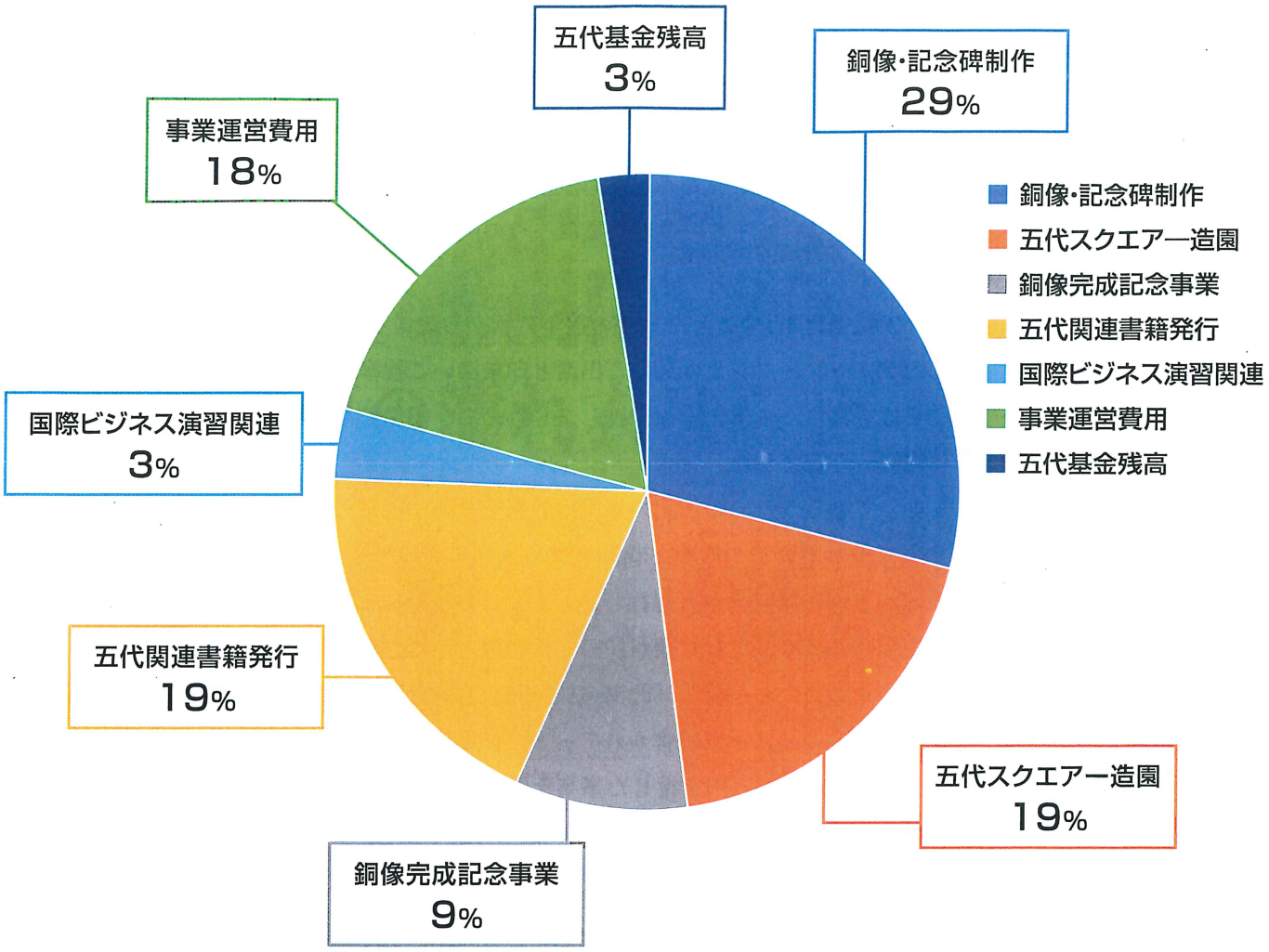
私たちは官有物払下げの詳細が記録され、五代が関与していないことを示す国立公文書館所蔵の政府文書「開拓使官有物払下げ許可及び取り消しの件」や、開拓長官黒田本人から聞いた話として「長官が五代に官有物の払下げを引き受けてくれるように要請したが、五代は採算が合わないという理由で断った」という話が記録されている明治の政治家佐佐木高行の日記『保古飛呂比』（東京大学出版会発行、全12巻）など信憑性の高い史料を順次添えながら、上記各社に対し三次にわたって記述の見直しを求める要望書を送りました。その結果、教科書会社5社のうち1社は自主的に記述を変更、3社が変更に応じ、今年4月から高校生が手にする日本史教科書の90％が記述変更されたものとなりました。また、岩波書店からは「従来の記述が事実に即していないことを確認したので、次回増刷時に訂正する」との回答をいただきました。

これらの活動はマスコミにも取り上げられ、関西テレビは「報道ランナー」で4月11日に放映、新聞では朝日新聞（4/12）朝刊に「五代友厚　濡れ衣だった『汚点』」、読売新聞（4/19）夕刊に「五代友厚140年の汚名返上」、産経新聞（5/9）朝刊に「晴れて大河に『五代様』を」、日経新聞（5/25）夕刊に「五代友厚の濡れ衣はらせ」の見出しで大きな記事として掲載されました。

五代の汚名をすすぐことがほぼ出来ましたので、今後は功績を顕彰する方向で活動します。

以上を持ちましてご寄付いただきました皆様へのお礼と活動の報告とさせていただきます。ご協力をいただき、ありがとうございました。

五代友厚記念事業収支状況　寄付他収入　66 百万円



五代友厚記念事業収支状況

平成27年2月から令和5年3月31日まで

科　目	金　額(千円)	備　　考
Ⅰ　収入の部		
寄付金	65,363	1876口
銅像完成式典参加費等	545	五代像完成式典の参加費、式典祝い金
五代記念誌広告料他	739	五代像完成記念誌に掲載された広告料他
収入合計	66,647	
Ⅱ　支出の部		
銅像並びに記念碑製作	19,251	五代像と記念碑の作成
五代スクエアー造園	12,629	五代スクエアーの造園並びにベンチ設置等
銅像完成記念事業	5,911	五代像完成式典費用と五代友厚記念誌作成費用
五代関連書籍発行費	12,606	新・五代友厚伝(原稿料他)、五代友厚小伝、五代シンポ報告書の発刊
国際ビジネス演習関連費	2,386	国際ビジネス演習とインターンシップの支援
五代友厚記念事業運営費	12,101	チラシや封筒の印刷、人件費、郵税、送料など
支出合計	64,885	
Ⅲ　収支差額金	1,763	

紹介記事

日本経済新聞（夕刊）　2023年（令和5年）5月25日（木曜日）

時を刻む

五代友厚の濡れ衣はらせ

明治期の実業家、五代友厚（1836～86年）は「近代大阪経済の父」と称される。一方、歴史教科書では長年、国有資産の払い下げを安く受けようとした政商などと記されてきたが、近年の研究で「濡れ衣」だった可能性が高まり、今春から複数の教科書会社が記述を修正した。その背景には、五代を開学の祖と仰ぐ大阪市立大学（現大阪公立大学）の同窓生らの名誉回復運動があった。

五代は薩摩藩出身。幕末の1865年、藩留学生を率いて渡英、産業の最先端を学んだ。維新後は新政府から民間に転じ、大阪で鉱山、貿易、鉄道など多くの事業の立ち上げに貢献。堂島米会所を再興し、大阪株式取引所（現大阪取引所）、大阪商法会議所（現大阪商工会議所）などを相次いで創設した。

大阪復活に道筋

大阪市大の源流、大阪商業講習所の開校も功績の一つ。大阪の復活に道筋をつけた恩人とも呼ばれる。

大阪市立大学同窓会は2016年、生誕180周年を記念し、五代を顕彰する銅像を杉本キャンパス（大阪市住吉区）に建てた。銅像は右手に本を持ち、遠く海の向こうを見つめる。除幕式にはNHK連続テレビ小説「あさが来た」で五代役を演じた俳優、ディーン・フジオカさんも訪れた。

銅像建立では卒業生らから多くの寄付が集まった。同窓会は18年、五代友厚記念事業委員会を立ち上げ、五代の志を継ぐ人材を育てようと国際ビジネス演習などの寄付講座を開講。新たな伝記の出版、シンポジウム開催にも取り組んだ。

折しも大阪府立大学との合併で、22年春から大阪公立大学が発足する手続きが進んでいた時期。大学名が変わる前の「ラストイチダイ」の取り組みとして特に力を入れたのが、五代が歴史の流れの中で貧った「汚名」をそそぐことだった。

大阪市大「開学の祖」、同窓生が奔走

開拓使長官の黒田清隆が、同じ薩摩藩出身の政商・五代友厚に、鉱山や工場などの官有物を安価で払い下げようとした――。1881年（明治14年）の「北海道開拓使官有物払い下げ事件」について、高校日本史の教科書などでは長年、こう記述されてきた。

自由民権運動による政府批判が激化し、その後の政変へとつながる事件であり、五代も非難と攻撃の対象となった。

市大OBで「新・五代友厚伝」を著した八木孝昌さんらによると、同事件が問題化したのは、当時の新聞が「五代らが設立した関西貿易社が開拓使と結託し、北海道の物産を一手に引き受けようとしている」と報じたのがきっかけ。八木さんは「記事は誤報だが、政府批判の中で真実のように広まった」と指摘する。

誤報と断じる根拠は当時の政府資料だ。黒田が政府に出した文書、政府が払い下げを承認した書類には、払い下げ先は開拓使幹部が退職して設立する民間会社とあり、五代や関西貿易社の名前は一切ないという。

また、土佐藩出身の政治家、佐佐木高行の日記には「黒田が五代に払い下げを打診したところ『採算が合わない』と断られた」とある。この記述を発見した住友史料館の末岡照啓さんは「関西貿易社は大阪の豪商らの共同出資会社。五代は役員会や株主の意向に背いて事業を進めることはできなかった」と指摘する。

市大同窓生らはこれらの証拠をもとに2021年と22年、教科書会社に修正を求める要望書を送った。

教科書修正も

その結果、山川出版社など4社が33年度版から記述を変更。第一学習社は払い下げ先を「開拓使官吏が退職して設立しようとした民間会社」と改め、他の会社も「（関西貿易社に払い下げようとしていると）新聞に報じられて問題になった」などの記述に変えた。

名誉回復に140年余りかかったのは、事件当時、五代が反論しなかったことも大きな要因だが、「実は住友初代総理事の広瀬宰平宛てに送った弁明の書簡がある」と末岡さん。広瀬は大阪商法会議所の副会頭、関西貿易社の副総監として五代を支えた人物だ。

弁明書には▽関西貿易社への払い下げ記事は誤報▽新聞での反論も検討したが断念した――とある。政府の重要な人物から「気にかけるな。放置してほしい」と諭されたとも記し、末岡さんは「黒田らの立場を考慮したのでは」とみる。

書簡には「青天白日、毫モ天地ニ愧ヂス」の文字が躍る。悪い行いは全くなく、少しも心にやましいところはない、という意味だ。事件の4年後、49歳で死去した五代は、いずれ弁明の機会はあると信じていたのだろうか。

（編集委員　影井幹夫）

五代友厚
（大阪商工会議所所蔵）

広瀬宰平にあてた弁明書の冒頭と末尾
（住友史料館所蔵）

大阪市立大学同窓会が建てた銅像
（大阪市住吉区）

五代友厚の歩み

1836年	薩摩国鹿児島郡城ケ谷で誕生
65	薩摩藩の留学生を連れて渡英
68	明治新政府の参与、大阪在勤
69	横浜転勤、官職を辞し大阪へ
73	鉱山管理会社・弘成館を設立
78	大阪株式取引所（現大阪取引所）を設立
	大阪商法会議所（現大阪商工会議所）を設立、初代会頭に
80	大阪商業講習所（後の大阪市立大）を設立
81	大阪の実業家らとの共同出資で関西貿易社を設立、総監に
	開拓使の官有物払い下げが問題化し、政府批判が激化
85	東京の別邸で死去

紹介記事

日新聞　2023（令和5）年4月12日 朝刊（全国版）　第3種郵便物認可

五代友厚 濡れ衣だった「汚点」

官有物払い下げ「無関係」教科書修正

五代友厚

幕末に薩摩藩の会計係として活躍。明治維新後は実業家として新政府の造幣寮（現・造幣局）を大阪に誘致したり、大阪株式取引所（現・大阪取引所）を設置したりした。NHK連続テレビ小説「あさが来た」で俳優のディーン・フジオカが演じ、注目された。

近代大阪経済の祖と呼ばれる実業家、五代友厚（1836～85）。実直で正義を重んじたとされるが、歴史教科書には長年、北海道開拓使の官有物払い下げ事件に関わったと記されてきた。しかし、最近の研究で無関係だった可能性が高まり、この春から教科書の記述が書き換えられた。関係者は「長年の思いがかなってうれしい」と話す。

1881年、北海道開拓使の長官・黒田清隆が、同じ薩摩出身の五代の求めに応じ、約2千万円を投じた事業を37万円余という不当に安い価格で払い下げようとした――。歴史教科書などには長年そう記され、2017年度のセンター試験にも出題された。

しかし、住友史料館（大阪市）の末岡照啓さんや、『新・五代友厚伝』を出版した八木孝昌さんらの研究で、五代の汚点とされるこの事件が濡れ衣だったことがわかってきた。政府が官有物の払い下げを決めた書類や、太政大臣だった三条実美あての「伺」に五代の名前は一切なく、政治家・佐々木高行の日記には黒田から聞いた話として、五代に払い下げを打診したが「採算が合わない」と断られた、と書かれていた。

誤解生んだ社説

五代が設立に関わった「大阪商業講習所」が源流となっている大阪市立大学（現・大阪公立大学）の関係者らで作る「五代友厚官有物払い下げ誤見直しを求める会」などによると、誤解のもとは1881年7月26日付の東京横浜毎日新聞の社説。「五代らが関わる関西貿易商会が開拓使と結託し、北海道物産ひとじ[illegible]を入手しようとしているという情報を得た」と記すが、その事実はなかった。

「沈黙」の理由は

五代は沈黙していたが、当時の本人の手紙によれば、政府の重要な地位の人物から「決して気にかけるな」などと諭され、きっと深い意味があるのだろうと、弁明を断念したらしい。その後、1952年に歴史学の大家だった大久保利謙がこの社説などをもとに、実際に五代が払い下げを求めたかのように論文を書き、学界に定着してしまったという。

求める会では、2021年と22年、教科書会社に見直しを求める要望書を送付。すると今年4月から使用が始まった歴史教科書で、清水書院が「黒田清隆が（略）不当に安い価格で、同じ薩摩出身の政商五代友厚の経営する『関西貿易社』に払い下げようとしていると新聞が報じて問題化した」と書き換えた。山川出版社、第一学習社、実教出版からも、記述の訂正に応じる旨の回答があったという。求める会代表の児玉隆夫さんは「ほっとした」と喜ぶ。

明治維新史に詳しい神田外語大学の[illegible]教授は「五代が濡れ衣を着せられたのは、当時、彼がまったく反論をしなかったことが大きい。しかし、末岡さんの研究でその理由が推測でき、教科書の記述も書き換えられた」と評価。「実在しなかった坂本龍馬の『船中八策』についていまだに記載が残るなど、歴史教科書にはこれまで、最新の歴史学研究の成果がなかなか反映されてこなかった。今回のことで良い流れができたと思う」と話す。

（編集委員・宮代栄一）

朝日新聞全国版(2023.4.12 朝刊)

よみうり寸評

明治期の大阪で紡績、鉄道…と多くの事業を興し、商工会議所の礎も築いた。維新後、衰退していく商都を立て直した五代友厚の功績は大きい◆東の渋沢栄一と並び称される実業家ながら、光を失った時代があるらしい。没後半世紀余りが過ぎた昭和の戦時下に、織田作之助が書いている。「友厚は忘れられ黙殺されている」（『大阪の指導者』）◆日本史の教科書にある「政商」というレッテルと無縁ではないだろう。1881年の北海道開拓使官有物払い下げ事件に関わり、鉱山や工場の払い下げを不当に安く受けようとしたとみられて批判を浴びた経緯がある◆どうやら濡れぎぬだったらしい。今年度版から五代が関与していないことを明確にした教科書が出ている。汚名につながった当時の新聞記事に誤りがあるとし、五代ゆかりの大学のOBらが史料を整え、働きかけできた結果だという◆私事ながら、ある講演で、教科書通り五代を語ったことがある。不勉強を恥じ入りつつ、汚名をすすぐ努力に深く敬意を表したい。

2023. 4.20

読売新聞全国版(2023.4.20 夕刊)